

第4回小諸市廃棄物減量・再資源化等推進市民会議議事録

【日時】 令和3年9月28日（火）18時00分～19時00分

⇒18時00分～19時15分

【場所】 小諸市役所3階 第1、2会議室

出席：細谷会長、木内副会長、原委員、村田委員、宇野委員、依田委員、
武者委員、佐藤委員、井出委員、下崎委員、清水委員、塩川委員、
事務局

1 開 会

副会長：

開会前に一言お話をさせていただきたい。

先日、図書館に来られた市民の方が、集積所に出された燃やすごみの中に、資源物が汚れたまま入っているものが山ほどあったということを嘆いていたが、どうにかしなければならないと、あらためて感じた。

2 あいさつ

会長：

今朝、小諸市の新型コロナウイルスの感染警戒レベルが4から1に引き下げられるという情報を知り、こういう状況が続いていかなければならないと思っている。

先日は浅麓環境施設組合の見学を予定していたが、感染警戒レベルが上がり延期になっている。また、様々な行事や催し物も中止や延期になった。今回、新型コロナの警戒レベルが下がったが、このまま継続して市民会議も開催できるように願っている。

クリーンヒルの見学をしたが、その中でアドバイザーが学習している様子を体験し、大変感銘を受けた。このような学習をアドバイザーの方々がそれぞれ工夫をして、小学校4年生に説明していることを知り、アドバイザー一人ひとりの賜物だと感じた。アドバイザーの皆さん、ありがとうございます。

3 会議事項

(1) ごみ処理基本計画の進捗状況について

⇒現在のごみ処理基本計画の10項目の指標における進捗状況について、目標値に対する実績と、現状、課題・今後の対応について、グラフ等により説明を行った。

※質疑応答

【委員】

1点目は、施策の最初にある市民協働について、市民が行政に関わる衛生委員をしているが、その衛生自治会の理事会の中で、一人の理事から「最近引っ越してきた方が区や自治会に入るのは役員がまわってくるので入りたくないという方が多い。」という話があった。これは市民協働に逆行することで、こういうことが増えてきていることから市民協働を推進する必要があると感じた。

2点目は、市民満足度の指標について、ごみへの取り組みに市民が点数をつけることはおかしいと感じる。そもそも市民協働は、自分達の街は自分達の手で作り上げるもので、満足度が低いということは自分達で取り組んでいないということ。自分達で街を作り上げようという市民を育てることが本当の市民協働ではないかと思う。

市民協働を育てる一つがごみ減量アドバイザーだが、活動する人が増えないという現状も市民協働が機能していないことでもあるので、そういった点も改善していく必要があると思う。

市民活動サポート条例といった行政が作った枠組みを利用しながら、補助金の申請がたくさん出てくるような工夫が必要になる。これまで、そういった市民協働の考察が足りなかった。

市民が「自分達のごみは自分達で片付ける」、そういったことにプライドを持てるようになると良い。

【事務局】

市民満足度については、毎年、小諸市実施計画の市民意識調査において「環境保全やごみ対策などの環境衛生の取り組み」が項目としてあり、指標にしやすいことから5点満点で目標値にしている。

ごみ減量アドバイザーが増えない、活発な活動ができていないのは、市の取り組みとして広報等が足りないということでもあり、市のPR不足ということがある。今後、計画の策定の中で充実させていきたい。

【委員】

質問を3点させていただく。

1点目は、計画値はどのように決めたか。

2点目は、ごみの排出量の実績値が目標値とかけ離れている主な原因は何か。

3点目は、今後、計画値を修正するか。

【事務局】

(計画値はどのように決めたか。)

平成24年度までのごみの排出量の実績から、人口減少の推移と、国の循環計画でゴミを減らしていく目標により計画値が作られている。そのため、ゴミの排出量が減少するという目標値になっている。

(ゴミの排出量の実績値が目標値とかけ離れている主な原因は何か。)

計画時点の平成24年度はリーマンショックの影響で景気が大きく落ち込み、ゴミの排出量が最も少ない時点で目標値を設定している。小諸市では次の年から、ゴミの排出量が増え始めている。

加えて、人口減少によりゴミの排出量の減少が見込まれていたが、人口減少と併せて世帯数が増えたこと、ライフスタイルの変化により、高齢者のオムツ、ペットシート、これまで庭で処分していた草など、これまであまりなかったものが、ゴミとして排出されたことが、ゴミ排出量が想定よりも増え続けた要因と考えられる。

更に、平成27年度、ゴミ処理施設クリーンヒルこもろの稼働に伴い、野火附埋立処理場が市民の受入を中止し、それまで「埋立ゴミ」として回収していた「製品プラスチック」が「燃やすゴミ」として回収することになったことで、「汚れたプラスチック」は「燃やすゴミ」として出してもよいということ等により、市民が安心して分別が甘くなったと考えられる。

(今後、計画値を修正するか。)

計画期間が令和5年度までの現在のごみ処理基本計画は、このまま見直しはしない予定。

令和6年度から始まる次期基本計画の策定にあたっては、今年度、施設見学や現状分析をしていただき、最新の実績値から、あらためて来年度、再来年度にかけて目標値を設定していくことになる。

【委員】

ゴミ収集の現場の話をさせていただくと、集積所の管理には地域ごとに温度差がある。その中で、和田区はお手本になっている。あれだけの大きい区であるにも関わらず、地元の管理がしっかりしている。

市民の意識が非常に大切であり、それをどのような形で広めていくのかが重要になってくると思う。

【事務局】

市民の皆さんへの分別の周知の一つとして、毎年、衛生自治会の総会の中で、集

積所を管理している衛生委員への研修会があり、研修会の中でごみ出しの悪い事例の写真などを見ていただくなどしてきている。

昨年度、今年度と2年続けて新型コロナの感染拡大により総会が中止となり、研修会ができていない。今年度は11月に衛生委員を対象に、研修会を予定している。

集積所の管理については、ホームページ、広報でも周知していきたい。また、啓発活動については、ごみ減量アドバイザーだけに活動していただくだけでなく、市職員も区の学習会、出前講座に出向いていかなければならないと考えている。

【委員】

「集団資源回収」について、市の財政負担を軽減するために見直しが必要と説明があったが、市の財政負担となっている予算は何で、金額はいくらぐらいか。

【事務局】

近隣自治体は「公民館等の拠点回収」か「集団資源回収」のどちらかとしている中で、小諸市では「集積所回収」を始めたが、それと併せて「集団資源回収」を実施し、更にリサイクル率を高めるため報奨金を上乘せしている。現在、小諸市は長野市とともに県内で1、2番目に高い報奨金制度を使っている。

小諸市の財政サイドからは、当初から二重経費ではないか、「集積所の収集と運搬委託料」と「集団資源回収の報奨金」で二重に支払われていると指摘を受けている。

現在、民間では店頭回収を行っており、段ボールはスーパーなどでも回収しており、「集積所」で回収している資源物が年々減っている中で、報奨金制度を活用した「集団資源回収」も行っている。

実際に報奨金制度を利用して「集団資源回収」を行っている PTA は活動資金としているが、報奨金がなければ、その分余計に集めてもらうことでお願いをしていきたい。

昨年度、一昨年度は PTA の保護者から、『コロナで資源回収に参加するのは心配なので、市から PTA 役員に「集団資源回収」をやめさせてもらえないか。』という声もあり、特に令和2年度の回収量は大きく減少している。

昨年度の「集団資源回収」における報奨金の予算は約 600 万円計上し、実績としては 341 件、回収量 658t、報奨金の支出が約 440 万円だった。

【委員】

10項目の指標⑦⑧は、達成しているということでよいか。例えば指標の⑦は家庭系のごみの中に資源物が混入している割合が、令和5年度の目標値 55.6%に対し、

平成30年度の実績値 41.6%、令和元年度の実績値 39.3%と下回っている。実績値が目標値よりも“良い”という結果か。

【事務局】

そうではない。指標の項目が分かりにくく大変申し訳ない。例えば⑦の「家庭系ごみ」は、国の「一般廃棄物実態調査」では「資源物も含めた廃棄物」としており、⑦は「廃棄物と資源物」に含まれる「資源物」の割合であり、目標値と比較して実績値が低くなっており、“良くない”という結果になる。

【委員】

そうすると指標⑧は達成しているということでしょうか。

【事務局】

割合だけ見れば達成している。これは「集団資源回収」も減っているが、それ以上に市が回収する「資源物全体」が減っていることを示している。

【委員】

10項目の目標に対して実績値が大きくかけ離れている等、計画の見直しが必要なのは分かった。今後、市民会議では令和5年度に向けて項目を絞って目標を決めて取り組むのか、全ての項目について取り組むのか、市の考えを教えて欲しい。

【事務局】

市民会議を進める中で、来年度には市の考え方、進め方を作成し、説明していく必要があると考えている。

その上でワークショップ形式により、ごみの分別、ごみを減らす協議をしていただく予定でいる。現時点で具体的なスケジュールを示しておらず申し訳ない。

【委員】

前回説明のあった市民会議の進め方を確認すると、今年度は「現行計画の進捗確認」「課題等の整理」「今後の方向性の検討」「目標設定の考え方の検討」をして、令和4年度に「ワークショップ形式」で進んでいくという考え方でよいのか。

【事務局】

今年度については、ごみ処理の実態、これまでの実績、進捗状況等を確認いただき、具体的に施設見学などをしながら、本計画の課題を知っていただく。

そのうえで、県のごみ処理基本計画などを基に、令和4年度には市のごみ処理基本計画の原案を市で示し、その原案を元に市民会議で協議いただくように考えている。

前回説明の中では、今年度ワークショップをするという説明だったが、そこまで進めるかはっきりしていない。

【委員】

現在の基本計画の指標⑦⑧は重要性があるのか。何のために統計を出しているのか疑問に感じる。意味がない気がする。

一番重要なのはごみの減量化だと思うが、それとともに再資源化も重要だが、指標の意味が分からない。

【事務局】

ご覧いただいている指標は、現在の計画の概要版で示しているもので、現状では店頭回収等により、市の回収量が減り、出版物が減ってきている等で資源物自体が減少している中で、「集団資源回収」の割合をグラフにして比較する必要があるかという、そこはご指摘いただいているとおり重要ではない。

リサイクル率を上げていかなければならないということは必要だが、指標⑦⑧については見直しが必要ではないかと考えている。

今回、平成26年度に策定したごみ処理基本計画の指標の進捗状況を検証するため報告させていただいた。

【委員】

基本計画の目標は10年先となっているがスパンが長くないか。社会情勢が変わり途中で見直しをすることになっている。データが古すぎてあまり意味がなくなっていて無駄な苦勞をしているように思うがどうか。

【事務局】

ごみ処理基本計画はある程度長期で見ていくことになっている。

市の基本構想は12年間で、4年ごとに策定する基本計画で見直しを行うことになっている。今後は市の基本構想と期間を合わせて、ごみ処理基本計画も8年、または12年という期間に見直していく必要がある。

ごみ処理基本計画は中長期の計画なのである程度の期間は必要になるが、目標値はその都度見直していく必要があると考えている。

小諸市基本構想とごみ処理基本計画は、当初の目標は一致していたが、小諸市基本構想は見直しがされ、ごみ処理基本計画とは別の目標値となっている。

【委員】

小諸市基本構想はごみ処理基本計画と別の目標値となっているということでそちらが本筋のようだが、市民会議ではどのように考えていくか。

【事務局】

小諸市基本構想は12年で、4年ごとの基本計画で見直しをかけていくので、10年ごとに策定しているごみ処理基本計画とは期間がズレてしまっている。

次期ごみ処理基本計画が令和6年から始まり、今回、小諸市基本計画のスタートと一致する。

その前の令和2年度に市の基本計画を見直した際、ごみの量が目標値と実績値で大きくズレが生じていることから、議会で見直しをすべきとの指摘を受け、市の基本計画の見直しが先になってしまったということが実態である。

ごみ処理基本計画は、この市民会議と環境審議会で見直しをすることになっているが、これまで見直しをしてきていない。

今後、小諸市基本計画の数値を市民会議でお示ししたいと考えている。

(2) 施設見学の日程について

浅麓環境施設組合

10月28日（木）13時～15時（現地集合、現地解散）

⇒新型コロナの感染警戒レベルが高くなり延期していた浅麓環境施設組合の見学について、感染レベルが1に下がったことから上記日程を進めていくことで、事務局の提案した日程で決定した。

4 当面の日程

(1) 第5回以降

11月24日（水）18時～19時

1月25日（火）18時～19時

3月22日（火）18時～19時

⇒今後の日程確認を行った。

5 その他 ⇒なし

6 閉 会